新しい風

日々精進

ジャズピアニスト
平　戸　祐　介

　ジャズピアニストとして活動を始めて20年は経とうとしています。私は、生粋の長崎っ子…しかも町っ子でした。眼鏡橋近くの魚の町で生まれ小さい頃から浜町は元より、万屋町、寺町、古川町、諏訪町…よく遊びました。中島川のほとりに当時実家があったので中島川でとりわけ川遊びはしていましたね。蒸気機関車が以前置いてあった長崎中央公園もよく遊んでいましたね。町っ子でしたのでラッキーな事に秋の大祭長崎くんちにも３度出ました。新大工町の先曳に始まり、魚の町の川船の〆太鼓…新大工町 曳壇尻の大太鼓…楽しかったなぁ。いや〜懐かしい。

　さて、私は小さい頃から音楽環境は整っている方でした。母親が武蔵野音大卒のピアノ教師、父親は新大工町で当時、ジャズ喫茶「コンボ」を経営…でしたので、小さい頃から既にピアノの手ほどきは母親から、ジャズの手ほどきは父親から、のような感じの生活を送っていました。「ジャズなんて…やったらダメ」…そういう堅苦しい家庭環境ではありませんでした。逆に「もっ

と頑張れ」「レコードたくさん聴け」と叱咤激励してくれる家庭環境でした。しかし…とりわけ母親とはレッスン中は、よく喧嘩しましたね（笑）…小学校の時は父親が大学まで野球をやっていた関係もあってか野球が大好きで、母親が、「ピアノをやってからじゃないと野球はできません！」という感じでしたので、まだ小学校の時、音楽にはまだまだ目覚めていなかったのでやり始め当初、ピアノはイヤイヤやっていた感もありましたね。ササッとやって公園に行って野球やっていましたね。（笑）

転機がやってきたのが…小学校高学年の時、親の勧めで福岡在住の伝説的ジャズピアニスト田村勝哉先生に師事した時でしょうか…そこでJAZZの楽しさ、難しさ両方を学ぶ事ができました。厳しい先生でもありましたがJAZZの楽しさを十二分に伝えてくれた事。今では感謝してもしきれません。今になって先生が当時おっしゃっていた事がクリアに理解できます。私の今の基礎が田村勝哉先生によって作られたと言っても過言ではないと思います。

そんな田村先生のご指導の下、中学１年生の時に地元ホテルでプロのミュージシャンの方々と初JAZZライブを敢行。「JAZZミュージシャンとしてやってみたい！」この時に目標が明確になったように思います。そんな田村先生との時間は、中学２年まで続きました。そして、高校進学…もうこの頃、漠然とながら国内より、高校卒業後はJAZZの本場ニューヨークで勉強するんだ！という思いも強くなってきまして…そこで県内では最初の取り組みだったかと記憶していますが、海外英語圏の先生を直接招聘して本場の英語が３年間学べる「英会話コース」がスタート、設立されたと話題になったのを聞き、今の自分に絶対役に立つと考えて、野球の名門校でもあり、たくさんの素晴らしい諸先輩を輩出している長崎の私学の雄海星高校へ進学しました。

この海星高校の校風…私に凄く合っていたのかもしれません。いやはや、恥ずかしいですが、ピアノも勉強も一番腰を落ち着かせてやれたのがこの海星高時代の３年間だったように思います。JAZZをやりたい…卒業後は留学したい…という思いがあった自分に諸先生方のご理解が大いにあったんだと思います。特に担任であった井手憲吾先生には大変お世話になりました。そして、海星高時代は、かけがえのない友人が沢山できました。今でも時々連絡をとりたいなあと思う奴

らばかりです。そんな充実した海星高校での生活も終わりいよいよJAZZの本場 ニューヨークへ渡ります。

当時師事していたピアニストの嶋津健一先生の勧めもあり、まだ開校して間もないNew School ジャズ科へ進学しました。開校して間もないといっても入学したらとんでもない奴らばかりいました。ブラッド メルドー（ピアノ）、アリ ジャクソン（ドラム）、クリストファー トーマス（ベース）、サム ヤヘル（オルガン）、マーカス ベイラー（ドラム）....他多数。現代JAZZ界で今やトップランナーでもある彼らと一緒に勉強するわけです。

やはり学生でもそこはニューヨーク…競争社会なんで同じ学生だろうが、常にバチバチでしたね。長崎生まれで性格もおっとりして、井の中の蛙状態だった私に相当な刺激と痛烈なパンチ、ジャブがあびせられたわけです。なんせ、慣れない言葉、そして生活様式…突然訪れた競争社会…学校でも緊張の連続で。ピアノも弾けるものも弾けない状態…入学して間も無く行われたクラスのレベル分けテストではズタボロの演奏…入学が取り消されるのでは？くらいの演奏でしたね。(笑)

でも、全てはここから始まりましたね。そこから学校内外のセッションに通ったり毎晩のように、たくさんのJAZZライブを観に行ったり一からまたJAZZをというか、音楽を学び直しました。だからこそ、音楽に真摯に取り組まないといけない、競争に打ち勝っていかないといけない、という基本はニューヨークでの大学生活で叩き込まれたと思います。今、思えば末恐ろしい生活をしていましたね（笑）よくできたな…と思います。今も大学時代の夢を見て「はっ！！」と目が覚める事もありますからね。また、挫折を味わったのも大学時代…２年間くらいピアノというか音楽から遠ざかった時期もありました。それほど戦ったニューヨークでの６年間の生活のおかげで、ハイネケンジャズコンペティションで優勝やジャズジャイアンツである、ベースの巨匠リチャードデイビスとの日本ツアーやいろんな事に果敢にチャレンジできるようになりました。

そして1999年に帰国。地元長崎を拠点に九州一円で演奏活動を開始します。当時は、NYで学んだJAZZをベースにHIP HOP、R&Bを融合させたような音楽をやりたかったんですが…ライブハウスへ行くと敷居や年代層が高く、伝統的なJAZZを楽しむミュージシャンの方々がそこにはいました。若い俺

らで若い感性でかっこいい、踊れるJAZZをやりたいと夢をもち活動していたんですが…ジャズシーンの理想と現実に凄く開きがありましたね。また自分自身の音楽もなかなか周りに受け入れてもらえず…悶々としたまま。

こりゃ、東京行くしかない！と決意して上京したのが2001年。しかし、ニューヨークで戦った６年は無駄ではなかった。生きましたね。あの経験が（笑）誰も東京に知り合いがいない状態からデモテープを作り、関係各所に送りまくり、新しいJAZZを創造するべく当時はじまったばかりだったインターネットを駆使してメンバー募集をした結果、実力ある華のある同年代のメンバーが集まって私のバンド quasimode（活動休止中）を立ち上げる事になります。

それ以降の活動は、国内外の著名な方々との演奏、大型Festivalへの出演、メジャーレーベル、ジャズの名門BLUE NOTEレーベルからのCDリリース等若い方々にJAZZを聴いて欲しいという願いの下に精力的に活動をやってきました。最近は、CASIO電子楽器のアンバサダーとしてバンド形態からソロ活動に転身をして鋭意創作活動をやっております。

今年３月には私初の教則本もリットーミュージックからリリースされました。またFM長崎でレギュラー番組を持ち毎週金曜19時30分より「YUSUKE HIRADO Radio Mono Creation」という番組をやっております。生まれ育った長崎にこれからは大なり小なり恩返しをしていきたいと思っております。

大好きな長崎のために一肌、二肌でも脱ぐ覚悟で残りの人生は長崎に全て捧げる気持ちでいます。なぜなら、長崎を心から愛してるからです。一つ一つの出会いに感謝しながら、これからも活動してまいります。みなさまの、応援、ご支援のほど何卒よろしくお願い致します。

平戸祐介（quasimode/Yusuke Hirado Prospect）

YUSUKE HIRADO Official Website
http://yusukehirado.net/